平成 30 年 3 月 15 日発行　NO. 2212　第 2365 例会　　会長　前川 成吉　　幹事　倉石 昌治　　会報委員長　桜井 隆宏

例会報告（平成 30 年 2 月 20 日）

国際ロータリー第 2790 地区 第 6 分区

インターシティーミーティング

〈テーマ〉

夢を語り、夢を実現させるために一歩踏み出そう！
一歩踏み出すと、クラブに感動と活力が湧き、
クラブに変化をもたらします！

12：30　登録開始

13：30　式典１　　司会進行　茂原中央ＲＣ幹事

物故会員に黙祷　　ガバナー補佐

ロータリーソング「我等の生業」

物故会員に黙祷　　ガバナー補佐

閉会のことば　　茂原中央ＲＣ会長

主催者あいさつ　　ガバナー補佐

来賓並びにリーダー紹介　　ガバナー補佐

来賓あいさつ　　ＰＧ　杉木禧夫様

一宮町長　馬淵昌也様

14:00　リーダー講演　地区奉仕プロジェクト統括委員長

石井　弘様（松戸西ＲＣ）

15：30　式典２

次年度ガバナー補佐紹介　　ガバナー補佐

次年度ガバナー補佐あいさつ

大網ＲＣ　髙山義則

次年度会長幹事紹介　　次年度ガバナー補佐

次年度ホストクラブ会長あいさつ

大網ＲＣ次年度会長

点鐘　　ＩＭ実行委員長

16：10　懇親会　　司会　茂原中央ＲＣ幹事

志田延子ガバナー補佐

杉木禧夫ＰＧ

地区ﾛｰﾀﾘｰ財団委員会

宇佐見透委員長

地区奉仕ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ委員会

石井弘統括委員長

高山義則次年度ガバナー補佐

杉森幹男次年度幹事

次年度地区委員

ご挨拶　　2017-2018 年度 第 6 分区ガバナー補佐　　志田　延子

第 6 分区の皆さま、寒い季節の開催となりましたインターシティーミーティングにご参加いただき心より感謝申し上げます。Ｉ.M. は寺嶋ガバナーのご挨拶で述べておられますようにとても貴重な機会です。今年度のＲＩ会長テーマは「ロータリー：変化をもたらす」であり、ロータリーとは「どのような団体か」ではなく「何をしているか」で定義されるとしています。そして実践的奉仕プロジェクトを通じて人々に好ましい変化をもたらそうと呼びかけています。今回は奉仕プロジェクト統括委員長 石井 弘様（松戸西ＲＣ）に「夢を語り、夢を実現させるために一歩を踏み出そう！ 一歩踏み出すと、クラブに感動と活力が湧き、クラブに変化をもたらします！」をテーマに講演をお願いいたしました。今回のＩ.M. が第 6 分区の会員の皆様にとって有意義な時間でありますことをご祈念いたしますとともにご参加いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

懇　親　会

一宮館にて

和太鼓奏者/
すめらぎ主宰　市原真司

津軽三味線/
民謡アーティスト　高山なおこ

リーダー講演

国際ロータリー第 2790 地区
奉仕プロジェクト統括委員会
委員長　　石井　　弘

地区奉仕プロジェクト委員会は、第 2790 地区 83 ロータリークラブの奉仕活動が、更に活発化し活躍の場を広げて頂ける様にサポートしてまいります。
本年度の奉仕プロジェクトスローガンは「夢を語り、夢を実現させるために一歩を踏み出そう、一歩を踏み出すとクラブに感動と活力が湧き、クラブに変化をもたらす！」です。
ロータリーの夢を、各クラブの会員全員で語って頂き、その話の中から新たな一歩を踏み出すヒントや、思わぬ発見を得る事が出来るはずです。それがクラブに新しい変化をもたらし、良い循環を生みクラブの発展に繋がるものと思います。主役はあくまで各クラブの皆さんです。第６分区の皆さんが更に奉仕活動に一歩を踏み出して頂ける事を期待しております。奉仕プロジェクト委員会では昨年２回のアンケートを実施致しました。その結果、第 2790 地区の奉仕活動を 3 つに分ける事が出来ます。

１つ目
地域の人口減少から、会員の減少、会員の高齢化、したがってクラブ資金の不足から奉仕活動が休止又は停止、更にはクラブの存続についても、検討しなければならないクラブも現れ、クラブ運営にも大変な危機感を持っておられるクラブ

２つ目
長年に渡り奉仕活動を行ってきたが「時代の流れが、あまりに早く」現在の活動が地域のニーズに本当に合っているのか、クラブのニーズにも合っているのか、検討を迫られているクラブ

３つ目
クラブが一丸となり奉仕活動に燃えて邁進し、それが素晴らしい循環を生み、会員増強にもつながりクラブの活性化を果たし、更に大きく発展をしているクラブ

さて、皆さんのクラブは 3 つのうちどれに入りますか？　地区奉仕プロジェクト委員会では奉仕活動に一歩踏み出すことを迷われているクラブの皆様には
〇他のクラブが実施している成功事例を多く紹介させて頂きます。
〇各クラブが望む卓話講師を派遣させて頂きます。
〇各クラブが一歩を踏み出せるように、企画、立案、実施のヒントを提供させて頂きます。

金銭的に問題があり一歩を踏み出せないクラブの方には
〇ロータリー財団の地区補助金の活用をお勧めいたします。
あくまで主役は各クラブの皆さんです。

〈アンケートから見えてきた問題点〉
長年に渡り奉仕活動を継続されてこられたクラブの中に、幾つかの問題点が浮き彫りになりました。
1) クラブに影響力のある方が企画立案した事業の為、事業を打ち切りたいが打ち切れないでいるクラブ
2) 5 年又は 10 年で他団体に移管することで始めた事業だが、移管先が見つからず継続になっているクラブ
といった問題点に対して次のようなアドバイスをさせて頂きます。
1) については、5 年ないしは 10 年と言う節目の年に、無記名で事業の継続について投票を行い、50 パーセントの賛否により、今後の方針を決定すべきと思います。
2) については、あらかじめ数年前より継続しないことを関係者に宣言し、新たな活動に進まれることをお勧めいたします。地区といたしましては、他のクラブの成功事例をたくさんご紹介させて頂き一歩踏み出す参考にして頂きたいと思います。しかしあくまでも参考であり、自分たちの所属するロータリークラブの地域にふさわしい企画を見つけ出して頂きたいと思います。

〔奉仕活動の新しい企画を見つけるキッカケについて〕

奉仕活動は何をしたら良いのか解らないという方が多いのですが、皆さんの地域や仕事関係など身近な所に有ります。ただ皆さんが気付かないだけです。年に 1～2 回、会員全員で地域や仕事関係から何か地域の為に成る事を探す例会を企画して頂きたい、全員に気が付いた事を発表して頂くと自然と皆さんの意識が変わってきます、必ずや地域に合った企画を見つける事が出来ると思います。

〈国際奉仕について〉

国際奉仕活動は「恩の先送り」活動

各クラブの皆様は多くの国に奉仕活動を実施されております。素晴らしい事だと思います。しかし、国際奉仕は自己満足に過ぎないのではないか、目的を見失う方もおられます。国際奉仕は結果がすぐに出ないからなのです。ロータリーで支援している方々が母国へ帰る時、必ず行ってくれる言葉が有ります「受けた恩を必ずお返しします」という言葉です。彼らに今、恩を返してもらわなくてもよいのです、今は彼らの国より豊かで恵まれた経済大国だからです。今は経済大国ですが、私たちの子供や孫の時代まで継続されているかわかりません、いつか日本がこまった時、その時にこそ恩を返してもらう時なのです、これを「恩の先送り」と言います。私たちは将来の日本の為、子供や孫の為、迷うことなく胸を張って「恩の先送り」活動をいたしましょう。

〈地区に思うこと〉

今、2790 地区と他の地区と比べてみると、少し低迷しているように思います。

その理由としては、

1)人的要素が挙げられます。2790 地区は、未だ RI 理事を輩出していません、したがって RI からの情報伝達が悪いことが一因と思われます。2790 地区も RI 理事を出すべき時期に来ていると思います。私の勝手な希望なのですが本年度ガバナー寺嶋さんに、ぜひ RI の理事を目指してほしいと思います。ぜひ皆さんから声を上げて頂ければ幸いです。

2)次に、2790 地区全体をレベルアップする為には、国際大会の誘致を提案いたします。国際大会を開催することによって、2790 地区（千葉県）を全世界に発信する素晴らしいチャンスを得る事になります、大会開催に当たり協力してくれた若い方々がロータリー活動のすばらしさに触れる事で、ロータリーを理解して入会して頂くことで、次の時代を支えてくれる人材を得るチャンスでもあるのです。

皆様にお願いは、ぜひ国際大会誘致へ声を上げて頂きたいと思います。

最後に、ロータリーはたくさんの勉強の引き出しを持っています。今日はこれに挑戦しよう、来年はあれに挑戦しようと、常に好奇心を絶やさず挑戦し続けていると、自分自身を大きく成長させてくれます。クラブにおいても同様だと思います。第 6 分区の皆さんが、更に多くの事に挑戦され、クラブに変化をもたらし、更に御活躍をされます事を、お祈りいたしております。

平成３０年２月２２日（木）
ロータリー情報研究会
18：30～　あづま庵にて

ロータリーについての基本的な勉強です。かたくるしくない勉強会で、終了後、お食事をしながら親睦を深めました。（クラブ研修委員会）